

Course number		G-LAS01 80009 LJ10					
Course title (and course title in English)	オープンサイエンス時代の学術研究基礎 Basics of Academic Research in the Open Science Era			Instructor's name, job title, and department of affiliation	Kyoto University Library Professor,MURAYAMA YASIIHIRO Institute for Information Management and Communication Associate Professor,NISHIOKA CHIFUMI Kyoto University Library Assistant Professor,NUMAJIRI HONAMI		
Group	Common Graduate Courses		Field(Classification)		Computer Science and Information Technology		
Language of instruction	Japanese		Old group		Number of credits	0.5	
Hours	7.5	Class style	Lecture (Media-based course)		Year/semesters	2026・Intensive, First semester	
Days and periods	Intensive 5/30 2-5periods	Target year	Graduate students		Eligible students	For all majors	
[Overview and purpose of the course]							
オープンサイエンスが学術界の様々な場面で推進されている今、これまでのように研究計画に基づいて調査研究を行い、論文として刊行して終わりという学術研究のサイクルではなく、研究の様々な段階で、学術情報を必要に応じて整備・オープン化して、その情報を活用することが求められています。本授業では、オープンサイエンスの定義や国内外の動向を学んだ上で、論文・データの出版・公開などにおけるオープンサイエンスの各側面を体系的に学び、自身の研究において具体的に実現可能な取り組み等の検討が可能になることを目指します。							
[Course objectives]							
● オープンサイエンスの概念と国内外の動向を体系的に理解し、自身の研究分野における意義と課題を説明できるようになる。 ● 論文や研究データをオープンな形で管理・公開するための具体的な手法とツール（研究データ管理（RDM）、リポジトリ、プレプリントサーバー）の重要性を理解し、実践的意義を説明できるようになる。 ● 自身の研究テーマに基づいて、具体的なオープンサイエンスを実践する研究計画の立案を行えるようになり、他者に説明できるようになる。							
[Course schedule and contents]							
授業は以下の内容を予定している。ただし進行状況などによって、講義の内容や順番を変更する可能性がある。 第1回: オープンサイエンス入門：なぜ今、どのように学術をオープンにするのか？（担当：村山） ● オープンサイエンスとは何か？（定義、歴史的背景） ● 国内外のオープンサイエンスの動向と主要な政策 ● 伝統的な学術研究の課題とオープンサイエンスの必要性 ● オープンサイエンスがもたらすメリット（透明性、再現性、社会への貢献） ● 研究者のキャリアパスとオープンサイエンス 第2回：オープンサイエンスの歴史と現代（担当：村山） ● 研究データ管理（RDM）の歴史 ● 現代の情報通信技術（ICT）基盤におけるRDMの理念 ● 電子情報の脆弱性と永続的識別子（DOI、ORCIDなど）の意義							
Continue to オープンサイエンス時代の学術研究基礎(2) ↓ ↓ ↓							

オープンサイエンス時代の学術研究基礎(2)

● データ管理計画（DMP）の在り方と考え方

第3回：オープンアクセス：論文の壁をなくす（担当：西岡）

- オープンアクセスの背景
- オープンアクセスの方法(グリーンOA、ゴールドOA)
- 論文公開プラットフォームの利用方法(リポジトリ)
- プレプリントの広まりとプレプリントサーバ
- 著作権とライセンス(クリエイティブ・コモンズ・ライセンス)

第4回：研究データ管理（RDM）：データを正しく扱うための基本（担当：沼尻）

- 研究データとは何か？
- RDMについて（定義、意義、研究ライフサイクルにおける位置づけ）
- データ管理計画（DMP）の策定
- データの整理、命名規則、メタデータ
- データの保存とバックアップ
- 演習：自身の研究データを想定して、簡単なDMPを作成する。

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

【方法】レポート試験：60%・コメントシート（各授業ごと各10%）：40%

【観点】オープンサイエンスの意義を理解する。またその実践を自分の研究・専門分野に即して考えられる。

[Textbooks]

資料を電子的に配布予定

[Study outside of class (preparation and review)]

授業外学習として課題を課す。

[Other information (office hours, etc.)]

決まったオフィス・アワーは設定していない。面談を希望する場合は、担当教員とメールにて日時を決定する。

[Essential courses]